

# 投獄の危機・降りかかる苦難

岩本友則

国際活動は、多国籍民族の寄せ集めであることから国民性、言葉や文化の違いにより意思疎通を欠く場合があります。それは、時としてトラブルを引き起こします。私が遭遇したトラブルについて紹介しましょう。

## 1. 騙された！

イラクに行く当たり、ウィーンにある IAEA 本部に行き必要な手続きと説明を受けました。その説明の中で、バーレーンの空港にフィールドオフィスの国連スタッフが貴方を、出迎え入国手続きからホテルへの送り全て対応するから、貴方はバーレーン空港に行けば良いとのジャックの言葉を信じて、バーレーンの空港に到着したのです。到着してみると出迎えてくれる人居ません。さあーどうしよう！泊まるホテルも知らない。何も聞かないできた自分の愚かさを後悔しつつ、先ずは入国審査を受けて預けた荷物の受け取り、それからホテル探そう！最悪野宿か？と考えている所に、バーレーンの日本大使館から助け人が来てくれました。

入国審査で、審査官よりバーレーンに入国するため VISA が必要、VISA 代金を請求されたのです。IAEA からを VISA に関する説明がなかったことから、

私) 国連の仕事でイラクに行くためにここに来た。それでも VISA 代を請求するのか？」

審) 「国連関係者の場合 VISA 代は不要、国連関係者なのに何故バーレーンのスタッフが来ないのか？」

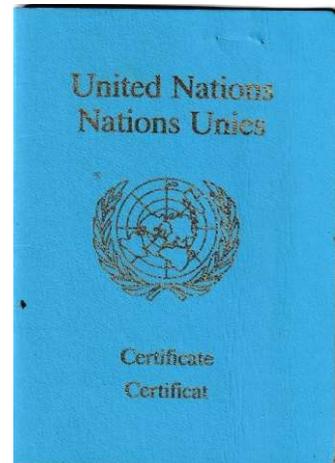
私) 「私もそう聞いていたが来ていないので困っている。」

審) 「国連を証明するものはないのか？」

そこで、左の写真の証明書を出して、VISA 代を支払う事なく入国したのです。

大使館の方に通常国連スタッフが宿泊するホテルに連れて行って頂き、ホテルのフロントで私の予約の有無を恐る恐る確認したのです。不思議なことにホテルは予約がしてあり、野宿は避けられたのです。

IAEA の連絡ミスで日本大使館の機敏且つ的確な対応により私は救われたのです。そして、ジャックに怒りを覚えつつ床に就いたのです。ジャックとは今も友人として交流しているのは、なんと不思議なことでしょう。



## 2. メソポタミア文明を育んだ川への思い

8月6日以降、緊張した日々の中で、日本へ帰る日がだんだん近づいてきました。私は、日本に帰る前に是非、歴史で学んだメソポタミア文明を育んだチグリス、ユーフラテス川の写真を撮って帰

りたと思ったのです。しかし、当時イラクでは、川や橋の写真撮影は、軍事戦略上とても重要な情報であったことから、写真撮影は禁止されておりました。

多分当時のイラクでは、衛星写真の存在について良く理解されていなかったのでしょうか。当時の衛星写真でも明確に見えていました。従って、写真撮影を禁止しても全く無意味だったのですが・・・。

査察に随行してくれるイラク政府の関係者に何処か写真撮影を許されている場所は無いのか？と聞きますと許されている場所は、在るが、その場所は何処か分からないとの返事です。その会話を聞いていた同僚のフサム君は、自分はアラビア語が出来るから、聞いて探してあげると言うのです。

私たちの会話を聞いていた同僚たちもチグリス、ユーフラテス川の写真を撮りたいと思っていたとの事で一緒に連れて行くことになったのです。

### 3. 人生これで終わり？投獄の危機

2日後、査察がいつもよりも2時間以上早く終わったことから、写真撮影場所探しのドライブです。フサム君は、イラク兵を見つけて訪ねる事から始めました。写真撮影の参加者が多くなったことから車2台で行き、フサム君の運転する車に、私が運転する車が後ろについて行きました。バグダッドの町は、町の中をチグリス川が蛇行しながら流れているせいで道の作りは複雑で方向感覚が分からなくなります。

そんな中、フサム君は、何を血迷ったのかフセイン大統領官邸に猛スピードで入って行くではありませんか！ 私はハンドルを切り、官邸に入らないで待っていると彼の車は大統領官邸から出てきました。ああ無事だったと思った次の瞬間、目を疑う光景がそこにありました。なんと彼の車の後ろには、銃を構えたイラク兵の車が5台追ってくるではありませんか、まるで、映画でも見ている光景です。そして、彼の車は、私の車の後ろで止まり、たちまち私たちは、銃を構えたイラク兵に取り囲まれたのです。

これは大変なことになった。捕らえられて取り調べ！そして投獄される！・・・と考えているとフサム君は、何か一生懸命説明しているのです。アラビア語なので分かりません。彼が説明している間、イラク兵は、車の中を調べ、私達一人一人に身分証明書（左下の写真）を、提示させ確認しているのです。私の身分証明書に記載された私の身分は「INSPECTOR」ではなく

「CONSULTANT」と記されていたことから、私にはさらなる追求があったのです。その時間は30分位の取り調べだったのですが、私達の誰もがとても長く感じたのです。



フサム君の説明により私たちは、何事もなく解放されました。命と投獄の危機は去ったのです。そればかりか、私たちの目的を知ったイラク兵は、大笑いしながら親切に写真撮影が出来る場所を、地面に地図を書きながら教えてくれました。そして、ようやく写真撮影が出来る場所に辿り着いたのです。

下記の写真が、バグダッド郊外のチグリス川の写真です。念願だったチグリス川の写真です。



このチグリス川で子供達は、水泳をして楽しんでいましたのです。また、日本の鯉とまったく同じ魚が泳いでいるではありませんか！ イラクの人は、この魚を食用としているそうです。

残念ながらユーフラテス川は、バグダッドから遠かった事、写真撮影出来る場所がとうとう分からなかったことから、写真に収めることが出来ませんでした。

続く